

巻末資料

- 巻末資料 1 稚樹保護柵設置選定箇所
- 巻末資料 2 イベント告知用チラシ
- 巻末資料 3 イベント配布資料
- 巻末資料 4 イベント配布アンケート
- 巻末資料 5 糞粒調査地点の概況写真
- 巻末資料 6 下層植生調査票（重点監視地区・周辺地区）
- 巻末資料 7 植生調査票（重点監視地区・周辺地区）
- 巻末資料 8 開花植物と訪花昆虫の関係図
- 巻末資料 9 訪花昆虫調査現地写真
- 巻末資料 10 開花・結実が確認された主な植物の現地写真

稚樹保護柵選定箇所現地写真 1



地点 1 トウヒ 自生稚樹



地点 2 トウヒ 自生稚樹



地点 3 トウヒ 自生稚樹



地点 4 トウヒ 自生稚樹



地点 5 トウヒ 自生稚樹



地点 6 トウヒ 自生稚樹



地点 7 トウヒ 自生稚樹



地点 8 トウヒ 自生稚樹

稚樹保護柵選定箇所現地写真 2



地点 9 トウヒ 自生稚樹



地点 10 トウヒ 自生稚樹



地点 11 トウヒ 自生稚樹



地点 12 トウヒ 自生稚樹



地点 13 トウヒ 自生稚樹



地点 14 トウヒ 自生稚樹・ヒノキ 自生稚樹



地点 15 トウヒ 自生稚樹



地点 16 トウヒ 自生稚樹

稚樹保護柵選定箇所現地写真 3



地点 17 トウヒ 自生稚樹



地点 18 トウヒ 自生稚樹



地点 19 トウヒ 自生稚樹



地点 20 トウヒ 自生稚樹



地点 21 トウヒ 自生稚樹



地点 22 トウヒ 自生稚樹



地点 23 ウラジロモミ 自生稚樹 剥皮有り



地点 24 トウヒ 自生稚樹

稚樹保護柵選定箇所現地写真 4



地点 2 5 トウヒ 自生稚樹



地点 2 6 トウヒ 自生稚樹
ウラジロモミ 自生稚樹



地点 2 7 トウヒ 自生稚樹
ウラジロモミ 自生稚樹



地点 2 8 トウヒ 自生稚樹



地点 2 9 トウヒ 自生稚樹

巻末資料 2

イベント告知用チラシ

山の日制定記念及び
吉野熊野国立公園指定 80 周年記念イベント



『大台ヶ原・ 大杉谷の森林再生応援団』 参加者募集 !!

参加費無料

- 開催日 平成 28 年 9 月 24 日 (土)
- 場所 大台ヶ原 正木峠周辺
- 募集人数 50 名 先着順
小学校 4 年生以上
- 申込期日 平成 28 年 9 月 14 日 (水)

大台ヶ原の正木峠から正木ヶ原にかけては、ササ原に枯木や倒木といった風景が広がっています。しかし、昭和 30 年代には、鬱蒼とした森林がありました。近畿地方環境事務所と三重森林管理署では、かつてあった森林を再生するために様々な取り組みを行っています。

秋の 1 日に、大台ヶ原の森林再生のお手伝いをしてみませんか？

正木峠から望む熊野灘

ササ刈り作業

ネット巻き作業

主催：近畿地方環境事務所・三重森林管理署

大台ヶ原・大杉谷の森林再生応援団の募集について

目的

大台ヶ原の正木峠から正木ヶ原にかけては、ササ原に枯木や倒木といった風景が広がっています。しかし、昭和30年代には、うっそうとした森林がありました。近畿地方環境事務所と三重森林管理署では、かつてあった森林を再生するために様々な取り組みを行っています。今回は森林再生の応援団となるボランティアを募集し、トウヒ、ウラジロモミなどの母樹や稚樹を守る応援作業を行います。

募集人数

50名

※ 小学校4年生以上を募集します。なお、小中学生は、保護者が同伴する方に限ります。片道1時間ほど山道を歩き、軽作業を行います。

応援作業の内容

- トウヒの稚樹周辺のササ刈り
- トウヒ、ウラジロモミなど母樹のネット巻き

開催日・集合場所・行程

- 開催日 平成28年9月24日(土) 11:00 ~ 15:20 小雨決行

- 集合場所 大台ヶ原ビジターセンター 奈良県吉野郡上北山村小椽

- 行程

10:30 受付開始	大台ヶ原ビジターセンター前で行います。
11:00 開会式	開会式の後、作業場所である正木ヶ原へ向かいます。
12:20 昼食	正木ヶ原で講師のお話を聞きながら。
13:00 森林再生の応援作業	班に分かれて、ササ刈りまたはネット巻きを行います。
14:00 応援作業終了	大台ヶ原ビジターセンターへ戻ります。
15:15 閉会式	閉会式終了後、解散いたします。

※ 小雨決行。荒天の場合は10/1(土)に順延します。中止の場合は開催前日17時頃までに連絡いたします。

※ 公共交通機関をご利用の方へ。大台ヶ原へは、近鉄大和上市駅から奈良交通のバスをご利用ください。

【行き】大和上市 9:00 → 大台ヶ原 10:51 【帰り】大台ヶ原 15:30 → 大和上市 17:21

服装・持ち物

【服装】 長袖・長ズボン、登山靴又は長靴、雨合羽(ポンチョではなく上下のものを推奨)

【持ち物】 昼食、飲み物(多めにご準備ください)、非常食(飴など)、リュックサック、タオル

※ 作業中はヘルメットを着用します。ヘルメットは貸与いたします。

※ 作業に必要な道具は貸与いたします。

参加費・参加申込・お問い合わせ先 等

- 参加費 無料

- 申込方法 参加申込書(別紙)を用いてE-mail又はFAXでお申込みください。

- 申込期限 平成28年9月14日(水) 先着順。定員になり次第締め切らせていただきます。

※ 結果については9月16日(金)までにご連絡いたします。

参加申込・お問い合わせ先

(株)環境総合テクノス 環境部 【担当】樋口高志・樋口香代・城向光弥

電話 06-6263-7320 (平日9時~17時) FAX 06-6263-7321 E-mail saisei@kanso.co.jp

巻末資料 3

イベント配布資料

山の日制定記念及び
吉野熊野国立公園指定 80 周年記念イベント



『大台ヶ原・ 大杉谷の森林再生応援団』

平成 28 年 9 月 24 日 (土)

配布資料

主催



近畿地方環境事務所
三重森林管理署

目 次

1	目的	1
2	日時	1
3	作業内容	1
4	大台ヶ原・大杉谷森林再生応援団 行程表	2
5	大台ヶ原・大杉谷森林再生応援団 実施場所	3
6	大台ヶ原・大杉谷について	4
7	大台ヶ原・大杉谷における自然再生の取組み	6
コラム1	スズタケとミヤコザサの違い	11
コラム2	ユネスコエコパークって？	12

大台ヶ原・大杉谷についての情報については、以下のホームページもご覧ください。

環境省近畿地方環境事務所 : <http://kinki.env.go.jp/>

近畿中国森林管理局三重森林管理署 : <http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/mie/>

大台ヶ原・大峯山・大杉谷ユネスコエコパーク : <http://oobr.jp/>

1. 目的

大台ヶ原の正木峠から正木ヶ原にかけては、ササ原に枯木や倒木といった風景が広がっています。しかし、昭和 30 年代には、鬱蒼とした森林がありました。近畿地方環境事務所と三重森林管理署では、かつてあった森林を再生するために様々な取り組みを行っています。今回は森林再生の応援団となるボランティアを募集し、トウヒ、ウラジロモミなどの母樹や稚樹を守る応援作業を行います。

2. 日時

平成 28 年 9 月 24 日（土） 11：00～15：20

3. 作業内容

- トウヒの稚樹周辺のササ刈り
稚樹保護柵内に生育するトウヒの自生稚樹周辺のササ刈りを行います。



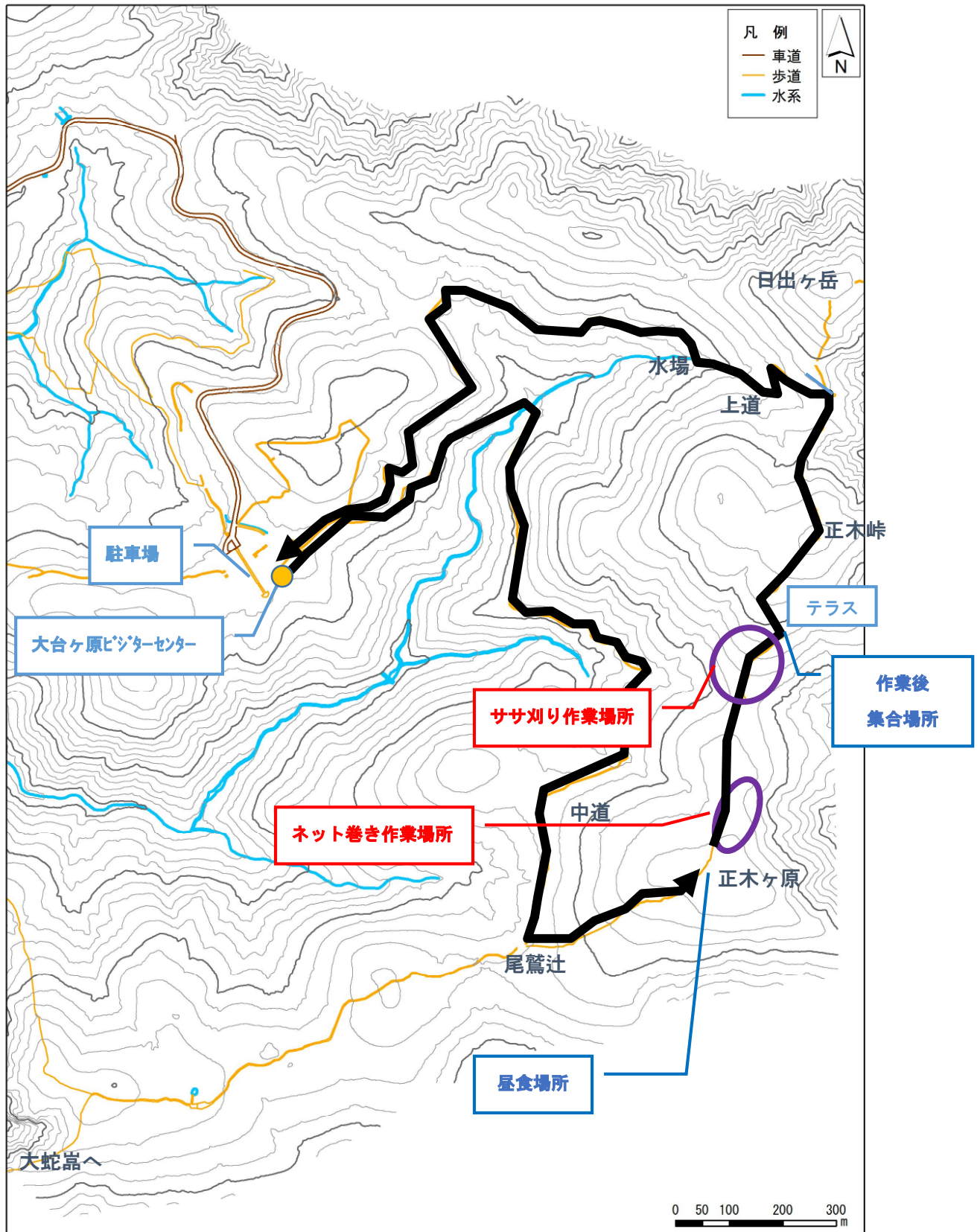
- トウヒ、ウラジロモミなど母樹のネット巻き
トウヒやウラジロモミといった針葉樹のシカによる樹皮剥ぎを防ぐために剥皮防止用ネットを幹から根にかけて巻き付けます。



4. 大台ヶ原・大杉谷の森林再生応援団 行程表

時刻	行程
10:30	大台ヶ原ビジターセンター前にて受付 ・作業班（ササ刈り、ネット巻き）分け ・ヘルメット、腕章、資料の配付
10:51	奈良交通バス着
11:00	開会式 ・主催者挨拶（三重森林管理署長） ・本日の行程、注意事項等説明 ・記念撮影
11:20	大台ヶ原ビジターセンター出発 ビジターセンター前～中道～正木ヶ原
12:20	正木ヶ原到着 【昼食】 ※昼食をとりながら、取組紹介と作業の説明 ・国立公園における自然再生の取組紹介（吉野自然保護官事務所 菅野自然保護官） ・国有林における自然再生の取組紹介（尾鷲森林事務所 中田地域統括森林官） ・作業目的の説明（KANSO テクノス）
12:45	各作業班ごとに作業場所へ移動 ・作業道具類の配布 ・業者による作業の実演説明 ササ刈り：KANSO テクノス ネット巻き：泉林業 ・説明終了後、各班に分かれ作業開始（30分程度） ※作業終了後、作業班ごとに点呼、作業道具の確認後集合場所へ移動
13:50	正木峠木道テラス集合 ・宮川源流の魅力と保護活動等の紹介（森正裕氏）
14:00	正木峠木道テラス出発 正木峠～上道～ビジターセンター前
15:10	ビジターセンター前到着
15:15	閉会式 ・主催者挨拶（近畿地方環境事務所長） 閉会式終了後解散 ※アンケート記入（協力者のみ）
15:30	奈良交通バス発

5. 大台ヶ原・大杉谷の森林再生応援団 実施場所

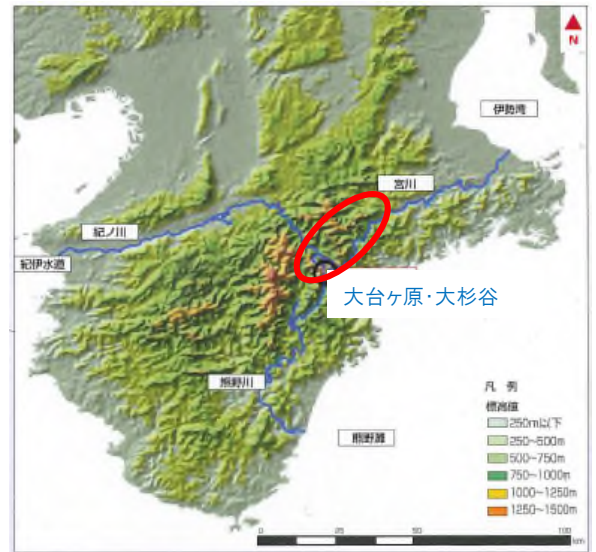


6. 大台ヶ原・大杉谷について

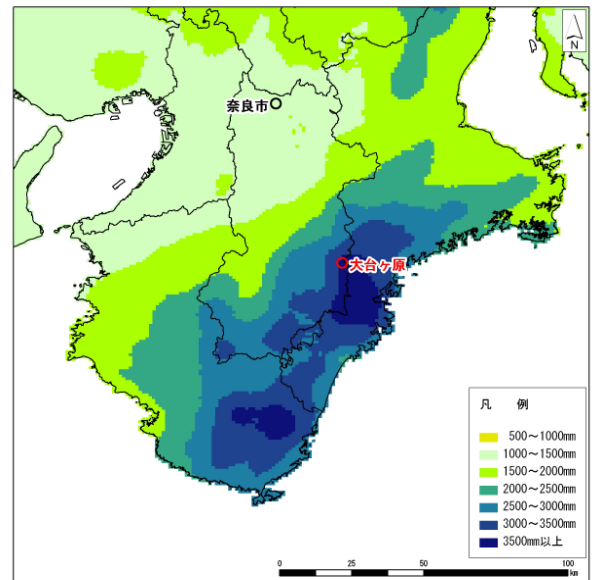
大台ヶ原は、奈良県と三重県の県境を南北に走る台高山系にあり、最高峰はで日出ヶ岳で、標高 1,695 mになります。大台ヶ原には緩やかな傾斜地が広がっています。これは、かつての準平原の名残をとどめるもので正木ヶ原や牛石ヶ原などの平坦地がそれであり、日出ヶ岳、三津河落山、経ヶ峰は準平原上にあった残丘です。大杉谷は大台ヶ原の北東側の山地一帯で伊勢平野南部を流れる宮川の水源地域となっています。日本三大渓谷といわれる美しい渓谷で名瀑が多いことで有名で、本流に注ぐ支谷の出口付近には落差の大きい滝が存在しています。これは地盤の急激な隆起にともない支谷の谷底浸食が本流のそれについていけない結果生じたものと考えられています。

本地域の年間降水量は 3,500mm 以上で奈良市の 1,500mm 以下の 2 倍以上となっており、屋久島と並ぶ日本有数の多雨地帯となっています。これは、紀伊半島の南東にある熊野灘に山地が迫っており、山地に吹き上げられた気流により雲が発生しやすいこと、紀伊半島周辺を通過する台風の影響等が考えられます。

本地域は貴重な自然が残されている近畿地方でも数少ない地域です。今回皆さんが保全作業を行う場所は日本のほぼ南限であるトウヒ林がある場所です。トウヒ林のような亜高山帯に生育する針葉樹の林は、近畿では大台ヶ原と大峰山脈の八剣山付近にしかありません。また、大台ヶ原ドライブウェイ沿いには西日本最大級のブナの自然林や全国的に数少なくなっているヒノキの自然林が広がっています。



紀伊半島の地形と大台ヶ原・大杉谷の位置

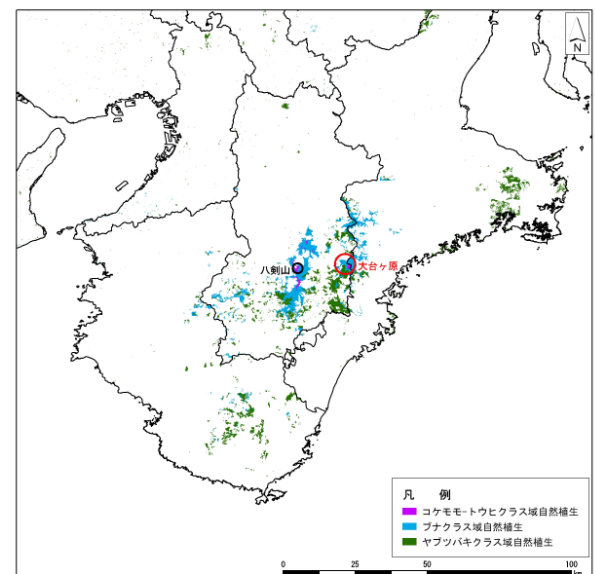


紀伊半島における年間降水量



ブナ

トウヒ



紀伊半島における自然林の分布

正木峠周辺の森林の衰退について

今回作業を行う東大台の正木峠を中心とした地域は、かつては近畿地方では数少ない亜高山帯針葉樹林であるトウヒ林が広がっていました。しかし、昭和 30 年代の伊勢湾台風等による樹木の風倒、ニホンジカの個体数増加、公園利用者の増加といった複合的な要因により、現在は森林の衰退が進み、トウヒ林は少なくなり、ミヤコザサの草地が広がっています。



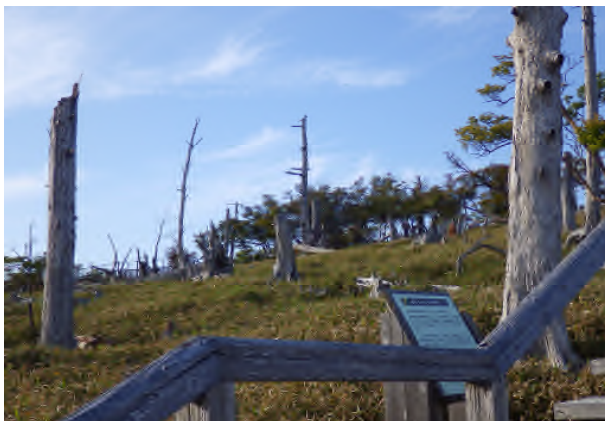
正木峠の空中写真：平成 25(2013)年



① 昭和 38(1963)年の正木峠



② 平成9(1997)年の正木峠



③ 平成 28(2016)年の正木峠

正木峠の景観の変化

※ 上の正木峠の空中写真の  部分

- ① 鬱蒼としたトウヒなどの針葉樹林で林床はコケに覆われていました。※ 写真提供 菅沼孝之氏
- ② トウヒなどの針葉樹の立枯れ木が目立ち、林床のコケは無くなり、ミヤコザサに覆われていました。
- ③ 立枯れ木も少なくなり、ミヤコザサの草地になっています。

7. 大台ヶ原・大杉谷における自然再生の取組

大台ヶ原における自然再生は、「大台ヶ原の現存する森林生態系の保全を図るとともに、天然更新により後継樹が健全に生育していた昭和30年代前半までの状況を一つの目安として、豊かな動植物からなる質の高い森林生態系の再生を目指すとともに利用の両立を図る。」ことを長期目標として、大台ヶ原全域にわたって行われています。この目標を達成するために、防鹿柵の設置や剥皮防止用ネットの取付といった植生への影響の軽減対策やニホンジカの個体数調整等の取り組みを行っています。植生への影響の軽減対策の取組は、今回、皆さんが保全作業を実施する正木峠に行く途中(上道)と正木峠から大台ヶ原ビジターセンターへ帰る途中(中道)の道沿いでも見ることができます。また、取組の効果は、少しずつですが現れ始めています。その中のいくつかについて、簡単に紹介します。

剥皮防止用ネット

シカは、ミヤコザサなどの下草だけではなく、樹木の樹皮も食べます(剥皮と呼んでいます)。餌不足やミネラルの補給など理由はいろいろいわれていますがその真相はわかりません。

特に、トウヒなどの針葉樹は幹周りをすべて剥皮されると、根からの水分が行き届かなくなり、枯れてしまいます。また、剥皮された部分は、腐りやすくなり、台風などの大風が吹くと、その部分から折れてしまい、枯れてしまうこともあります。

このため、シカによる剥皮から樹木を守るための取組として、トウヒ等針葉樹を主な対象として剥皮防止用ネットを巻いており、剥皮により枯れる樹木は対策を行う前に比べ減少しました。以前の剥皮防止用ネットは、金属製ネットでした。しかし、ネットの素材から溶出する金属イオンが木の幹に着生するコケの生育を阻害していることが考えられたため、平成22年度以降からは、樹脂製ネットに切り替えており、樹脂製ネットの下にコケが回復し始めています。今回作業を行う場所はトウヒとウラジロモミがまばらに生育しており対策が必要な場所です。



シカによる剥皮
(ウラジロモミ)



シカによる剥皮部分
で、幹折れしたトウヒ



金属製ネット



樹脂製ネット

自生稚樹保護のための防鹿柵の設置とその効果

正木峠は、一見、立ち枯れ木とミヤコザサだけしか見えないように見えますが、ササ原の中を良く探すとトウヒの自生稚樹が生育しています。しかし、これらの自生稚樹は、頂芽や樹皮をシカが食べることで、成長が抑えられ、ひどい場合には枯れてしまいます。



正木峠に生育しているトウヒの自生稚樹



シカに食べられ、枯れたトウヒの自生稚樹

平成 17 年 1 月に策定した「大台ヶ原自然再生推進計画」の中期目標の1つとして、「ミヤコザサ草地から森林への遷移」があげられています。

この中期目標を達成するための具体的な取組の1つとして、将来、森林更新の核となる母樹群を育成するために、正木峠の自生稚樹がまとまって分布している場所に防鹿柵を設置し、自生稚樹の保護、育成を図っています。



自生稚樹保護のための防鹿柵

防鹿柵を設置前には、最も大きな自生稚樹は70cmぐらいの高さでしたが、防鹿柵設置から5年が経過した頃には、トウヒ等針葉樹の自生稚樹は順調に成長し、2mを超える個体も見られました(図1)。このようにミヤコザサ草地において、自生稚樹を防鹿柵で保護することは、森林への遷移を誘導するための有効な手法と考えられています。

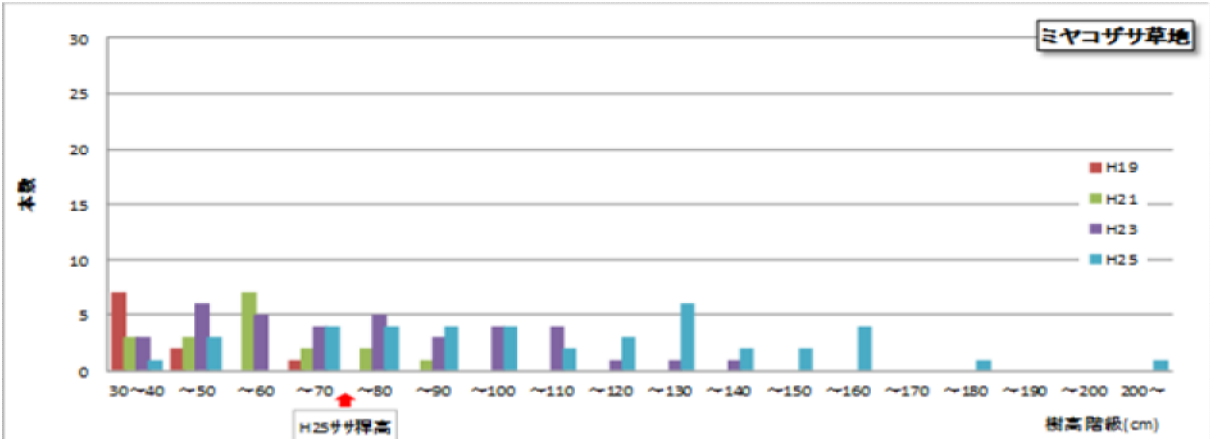


図 1 正木峠における自生稚樹の樹高階級分布の変化

ミヤコザサ草地における防鹿柵設置の問題点と評判り

ミヤコザサが生育している場所における防鹿柵の設置は、シカによる被食から自生稚樹を保護すると同時にミヤコザサも食べられなくなるため、柵内のミヤコザサは繁茂します(図2)。

ミヤコザサよりも高さの低い自生稚樹は、ミヤコザサに覆われるため、成長しなくなり、いずれ枯れてしまいます。

このため、ミヤコザサよりも低い自生稚樹の育成を図るためには、自生稚樹の周りのミヤコザサを刈り取る「坪刈り」が必要となります(図3)。

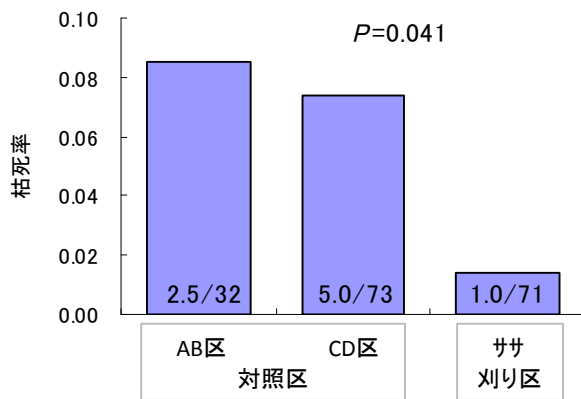


図3 ササ刈り区と対照区におけるトウヒ自生稚樹の枯死率(平成19年~21年)

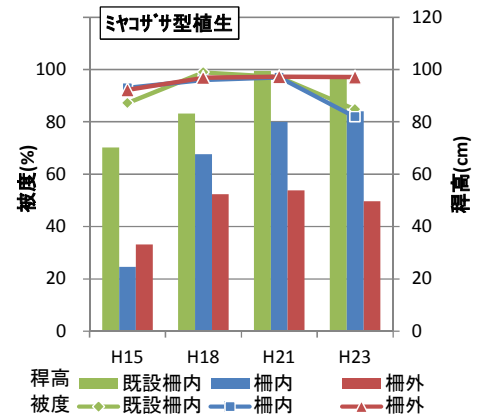


図2 防鹿柵内外のミヤコザサの被度、稈高の変化

※平成19年から平成21年までの2年間の枯死率を示した。ササ被度が75%以上の被圧個体のみを対象とした。数値は分母が個体数、分子が2年間平均枯死個体数。ササ刈り区は年1回自生稚樹の周囲を半径1mの範囲でミヤコザサの坪刈りを実施した。



坪刈り前



坪刈り後

今回、ササ刈り作業を行う稚樹保護柵は、平成26~27年度に設置しており、設置から1~2年経過しています。設置後、坪刈りを実施していないため、ミヤコザサに覆われている自生稚樹が見られるようになりました。このため、今回は、自然再生の取組の一つとして、自生稚樹の育成を図るための坪刈りを行います。坪刈りは、自生稚樹の枝張りがミヤコザサに覆われないように根元から刈り取ります。



稚樹保護柵内の状況

防鹿柵の種類と目的

大台ヶ原を特徴づける森林生態系のうち、衰退が進んでいる等緊急に保全が必要な箇所や生物多様性の保全上重要である場所において、防鹿柵を設置しています。

当初は、正木峠周辺や苔探勝路等のトウヒ林の保護を目的に設置していましたが、自然再生事業が始まってからは、生物多様性や後継樹を含めた下層植生の保護、スズタケの保護といった目的も加わりました。西大台の沢沿いに設置した生物多様性の回復を目的に設置した防鹿柵では、数年で下層植生の被度や種数が増加するなど、設置の効果が顕著に見られます。



コウヤ谷 No.38 防鹿柵内(平成 21 年)



コウヤ谷 No.38 防鹿柵内(平成 24 年)

防鹿柵の構造は、当初は正木峠の No.5 や No.6 といった防鹿柵のように、風が強く、積雪が多いといった大台ヶ原の気候を考慮して頑丈な防鹿柵を設置してきましたが、耐久性や工事のしやすさ、景観などについて考えながら改良し、現在は FRP 製支柱とステンレスネット入りの構造の防鹿柵となりました。



耐雪用格子柵(No5、正木峠)



FRP 製支柱とステンレス入ネット柵(No17、上道)



中道沿いの No.19 防鹿柵は、かつて東大台に広く分布していた苔むしたトウヒ林の様相を残している数少ない場所です。

大台ヶ原を特徴付ける植生を保護するとともに東大台の目標となる植生であることから、自然再生手法の検討のために平成 15 年度に設置したものです。現在、他の大台ヶ原を代表する 6 地点と合わせて植生変化や動植物相に関するモニタリングを実施しています。

No.19 防鹿柵 植生タイプⅣ(トウヒーコケ密タイプ)

トウヒ苗木の試験植栽

駐車場の南側にある苗畑に生育しているトウヒは、昭和61年～平成2年にかけて種を蒔き、発芽した苗を成長させたものです。これらの苗木について、平成5年から断続的に正木峠の防鹿柵内に試験植栽を行ってきました。正木峠に植栽した苗木は、植栽から最大20年以上が経過しています。生存率は80%以上で大きなものは樹高が4m以上になっています。このまま順調に生育すれば、近い将来に球果を付け、周囲に種子を散布するようになるので、ミヤコザサ草地から森林への遷移の重要な場所となる可能性があります。

平成22年には、上北山小学校、上北山中学校、地元ボランティア等の協力により植栽イベントを行いました。また、平成26年には、苔探勝路や上道沿いの明るい場所に試験植栽を行いました。これらの苗木は一部枯れたものもありますが、順調に生育しており、今後が期待されます。

なお、正木峠で今回、皆さんが保護作業を実施したような自生稚樹が多数確認されていることから、遺伝的多様性等に配慮し、植栽を前提とした新たな苗木の育成は行わず、自生稚樹の保護を進めていくこととなっています。



正木峠 No.5 防鹿柵内のトウヒ苗木の状況



上道沿いの柵内のトウヒ苗木の状況

コマドリが生息環境の回復を目指して



コマドリ

大台ヶ原には、奈良県の県鳥である「コマドリ」が生息しています。コマドリは夏鳥で「ヒン カラララ」と馬(駒)のいななきに似た声でさえずります。かつて大台ヶ原の林の下にスズタケが繁茂していた頃にはたくさんのコマドリが生息していましたが、シカの個体数の増加等の影響により、繁っていたスズタケが衰退してしまったため、このような環境をすみかとしているコマドリは急速に減少しました。平成23年に東大台で日本野鳥の会奈良支部が調査した結果では、3羽が確認されたのみでした。現在、自然再生の取組の1つである防鹿柵を設

置したことで、防鹿柵内のスズタケが回復し始めており、コマドリの生息環境の回復が期待されています。また、ニホンジカの個体数調整により、平成26年の東大台のシカの個体数密度は11.0頭/k㎡と平成13年の109.7頭/k㎡に比べれば格段に減少し、公園利用者から、以前よりもコマドリの声が聞かれるようになったといわれていますが、防鹿柵外のスズタケの回復はまだ不十分であり、コマドリの生息環境が本格的に回復するには、更なる時間とシカの捕獲が必要と考えられます。

コラム 1

スズタケとミヤコザサの違い

大台ヶ原には、ミヤコザサとスズタケの2種類のササが生育しています。ミヤコザサは主に東大台に、スズタケは主に西大台に分布していますが、大台ヶ原ビジターセンターやセツ池周辺ではどちらも生育しています。混ざって生育しているところでは、一見似ていて見分けにくいですが、形態や生態的な特徴が違って、シカの個体密度が高い大台ヶ原ではその生育状況に差が現れています。

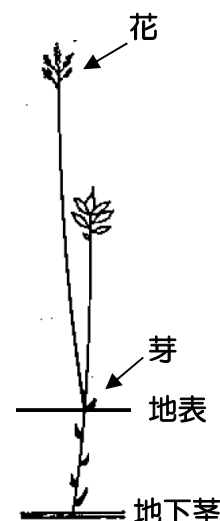
以下にそれぞれの特徴と見分け方を簡単にまとめました。

ミヤコザサ

大台ヶ原のミヤコザサは、日出ヶ岳や正木峠周辺の柵外で見られるように背丈が低く、稈も細いことからイトザサともいわれていました。北海道、本州、四国、九州の積雪の少ない太平洋側に生育しており、その分布の限界はミヤコザサ線と呼ばれ、太平洋型気候域の指標となっています。冬芽は地上部にはなく、シカに食べられないため、シカによる被食耐性があり、被食後の回復力も強く、矮小化することはありません。

【見分け方】

- 高さ 1m以下。
- 枝 普通は分岐しない。
- 稈(かん) 単一で直径2~4mmと細く、節は球状にふくれる。通常1年で枯れる。
- 稈鞘 節間の2分の1より短く、表面は無毛。
- 葉 裏面は軟毛が密生し、肩毛が放射状に開出する。

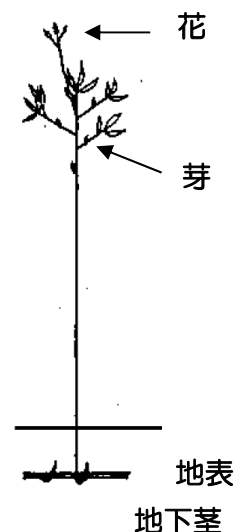


スズタケ

北海道南部、本州、四国、九州に生育しており、太平洋側のブナ林の林床のササはスズタケが最も多くなっています。冬芽は稈の下部にはなく、稈の上部での分岐は多いが稈は直立します。他のササ類に比べ開芽はかなり遅く、冬芽は冬の間は全く成長せずに生育しないため、冬の寒さに対し適応をしています。冬芽が頂部だけにあり、シカによる被食耐性がなく、被食後の回復力が弱いため、全国的にシカの個体数密度が高いところではほとんど見られなくなっています。現在、大台ヶ原でも健全なスズタケはシオカラ谷など限られた場所のみでしか見られません。

【見分け方】

- 高さ 1~2m。
- 枝 稈の頂部で分岐し、1節から1個で。
- 稈(かん) 直径4~8mmで、節はふくれない。
- 稈鞘 節間より長く稈面が見えない。表面は荒毛がある。
- 葉 両面とも無毛。肩毛はない。



コラム 2

ユネスコエコパークって？

大台ヶ原・大杉谷はユネスコエコパーク！

ユネスコエコパークって知っていますか？

最近、ニュースなどで話題となっている熊野古道や屋久島、富士山などの「世界遺産」と同じように、国際連合の機関であるユネスコが登録する地域のことです。

実は、大台ヶ原は、日本で最初に登録されたユネスコエコパークの1つなのです！！

大台ヶ原は大峯山とともに、国内有数の多雨地帯で貴重な植生を有し、古くから森と人の関わりがあることなどから、昭和 55 年に屋久島、白山、志賀高原とともに登録されました。平成 27 年9月に拡張登録について、日本ユネスコ国内委員会からユネスコに推薦され、平成 28 年3月にペルーで開かれたユネスコ MAB 計画国際調整理事会において、拡張登録されました。拡張に伴い名称も「大台ヶ原・大峯山ユネスコエコパーク」から「大台ヶ原・大峯山・大杉谷ユネスコエコパーク」に変わりました。

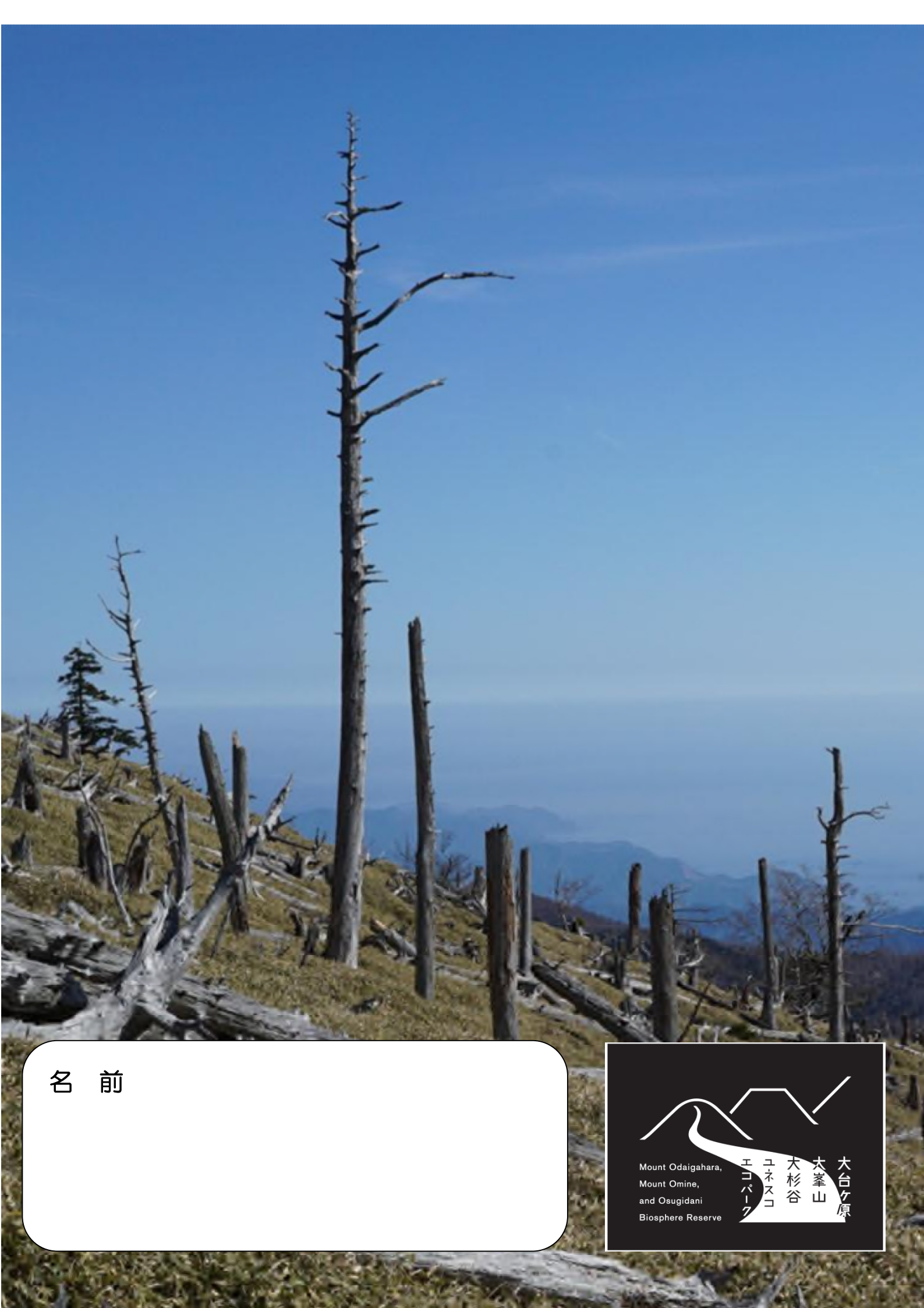
ユネスコエコパークってどんなところ？

ユネスコエコパークの正式名称は、生物圏保存地域といいます。生態系の保全と持続可能な利活用の調和(自然と人間社会の共生)が目的となっており、手つかずの自然を守ることを原則とする世界遺産とは異なっています。このため、「保全機能」、「経済と社会の発展」、「学術的支援」の3つの機能を持つ地域を登録しており、「核心地域」、「緩衝地域」と共に、「移行地域」(地域社会や経済発展が図られる地域)を設置しています。大台ヶ原・大杉谷は、多くの動植物の生息が可能であり、法的にも厳しく保護され、長期的に保全されている地域である「核心地域」に含まれています。

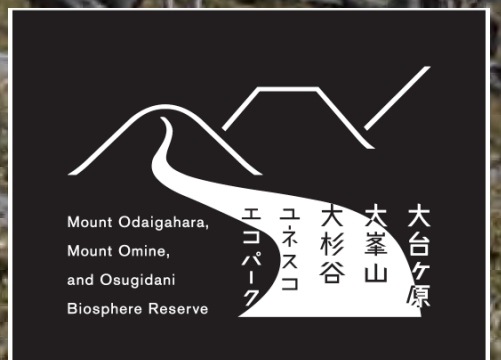


大台ヶ原・大峯山・大杉谷ユネスコエコパークの位置

メ 毛



名 前



作業を安全に行う ために！

ケガなどがなく、安全に作業を行うために
以下の点に気をつけてください。

1. ササの下には、倒木や根株、穴が隠れています。つまづいたり、すねを打ったりしてケガをすることがあります。移動する時は足下を良く確認して慎重に歩いてください。倒木等を見つけたら、近くの人に倒木等があることを知らせてください。
2. ササ刈り時やネットやロープを切る時に刃物で指などを切ることがあります。必ず、軍手などの手袋を着用して作業をしてください。
3. 岩場や急斜面は滑りやすく転ぶことがあります。滑りにくい靴を着用してください。
4. 雷の音が聞こえたら、落雷する可能性があります。作業を中止して下山してください。
5. 霧が出ると方角がわからなくなり迷ってしまいます。単独行動はしないようにしてください。

巻末資料 4

イベント配布アンケート

